

日本あちこち河川遡行記（第 226 回）

大阪-2. 大和川（その 1）平成 30 年 10 月 22 日（月）快晴

大阪市南部で大阪湾に注ぐ大和川を目指す。姫路駅で新快速に乗り継ぎ座席から北側を見ると丁度駅ビルとビル群の間から城が顔を出していたのでカシャ。



01.車窓からお城が見えた

土曜日（20日）に久しぶりの東京でインフラマネジメントに関するシンポジウムが開催され、1.5時間ほどパワーポイントを使って話をしてきた。朝早く出かけ帰宅は23時過ぎとなったので、昨日はおとなしくしていたが今日は朝早くからのお出かけとなった。

大阪駅から地下鉄四つ橋線に乗るため西梅田駅に向かう。阪神電鉄梅田駅と同じ深さに地下鉄を建設したので、四つ橋線の西梅田以北への延長が不可能となったのは将来への見通しが悪かったが、第三軌条方式なので延伸してもお相手がないので仕方ないか。車内の地下鉄路線図を見ると、子供の時は御堂筋線の梅田～西田辺と四つ橋線の西梅田～花園町だけの地下鉄が60年余りで大幅に拡張された。

終点の「住之江公園」の地下駅からエスカレーターに乗ると3階の新交通システムの「南港ポートタウン線」のホームに上げてくれる。小型車4両のバマイクロボスの乗車感覚で一つ目の「平林」で降りる。高いホームから北側を見るとかつての貯木場の広い水面が広がっている。彼方には「木津川」を超える「新木津川大橋」も見える。



02.大阪の地下鉄路線図



03.平林駅ホームの北側には貯木場が



04.住之江公園からは新交通に

地上に降りてくると丁度昼頃となり、うまい具合に中華料理屋が有るやおまへんか！ランチセットの昼を摂り腹も膨らんだので戦に出かける。南に400mほど進むとすぐに大和川右岸の土手に着く。眼前に阪神高速湾岸線の「大和川大橋」の斜張橋が大きく視界に入る。



05.南の大和川の右岸の土手へ

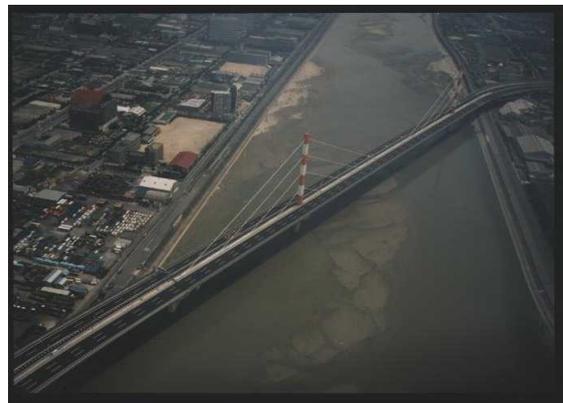
川は大阪市と堺市の境を流れ、高速は堺側の製鉄所などの大規模工場を避け

るためきつい斜角で川を越えている。橋は中央支間長 355m の長大斜張橋で主塔は珍しい1本柱、ケーブルは優雅な平行に張られたハープ式の景観の優れた橋である。惜しむらくは主塔が昼間対空標識の赤白マンダラ模様塗られていたのだが、今見るとそれが無くなり白色になっている。塔頭には白色閃光灯らしき物も設置されている。塔の塗り替えに合わせて航空局に申請したのだな。

土手下の住宅を見下ろす土手道の川側には高さ 1.2m ほどのコンクリート壁が追加されている。色からすると最近施工されたようだ。



06.真正面に阪神高速湾岸線の斜張橋が、07.コンクリート防潮堤が追加されて
圧倒されるなー いる



08.川を斜めに横断する橋は1本柱に
ハープ形状ケーブル

09.かつての大和川橋梁

直ぐに河口からの距離を示す大きな看板が立っている。ここは河口から 1.2km となっている。湾岸部の埋め立てが始まる前の大阪市側の土地の端がゼロ地点に相当する。

女性がアヒルを連れてやって来て土手道を散歩させている。黒い舗装道を白いガーちゃんが嬉しそうに歩き回っている。



10.土手道はアヒルのお散歩に良いな



11.速足で走るガーちゃん

土手道を東に進むとこの先「阪堺大橋」までは堤防の護岸工事のため何人も通行ならぬとの看板が現れやむなく土手下の道に降りる。



12.堤防補強工事でやむなく下に降りる

土手下には寝屋川でよく見かけた3階建ての住宅がここにも有る。海拔ゼロ以下の地域では3階建ては必須なのかもしれない。デザインがばらばらな住宅の前をさらに電柱と電線が醜悪な姿を見せている。



13.寝屋川で見かけた3階建て住宅が



14.家も電柱もごちゃごちゃヤー

ここにもおまっせ！

府道 29 号（新なにわ筋）の「阪堺大橋」の下にやって来たので土手に上がる。水道管 2 本の上にガス管 1 本が乗った水管橋の上流側に両側歩道に 6 車線の広い幅員の橋が川を横断している。横断方向に二つの橋脚が立ちその上に乗る箱桁は互いに相当離れ、その間に多くの横桁を箱桁の間を繋いだ変わった構造の橋である。横桁は小さな橋の主桁ほどの長さが有る。



15. 先ずは府道 29 号（新なにわ筋）の
阪堺大橋

16. 阪堺大橋の主桁（箱桁）の間隔は
超ワイド

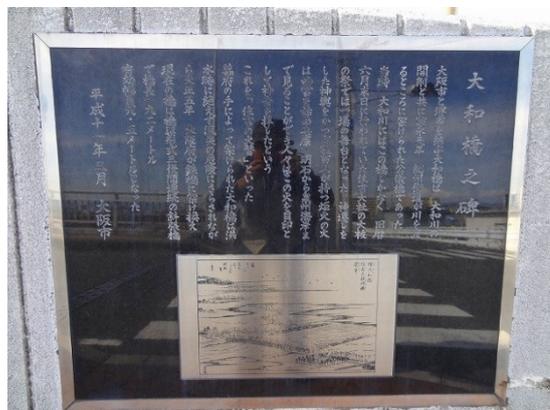
次に控えしは国道 26 号の「大和川大橋」だ。橋は今では珍しいリベットで部材を繋いだ古強者だ。よく見ると橋の支承が橋脚上で 1 つから 3 つに増え、新しい 2 つの支承の上の桁が補強されている。耐震補強法としてこういうやり方も有るのだな。



17. 国道 26 号の大和川大橋は古強者

次の大阪市道の「大和川橋」の親柱にこの橋の歴史が説明されている。大和川はかつては大和と河内の国境を越えると流れは北北西に進路を取り淀川に合流していた。度重なる洪水に悩まされてきた領民の願いで川を西にそのまま流

すための開削事業が実施された。完成後最初に架かった橋がこの大和川橋と
ことである。



18.大和川橋は川開削直後にできた最初の橋だったのだ

橋の上から上流側を見れば「阪堺電気軌道」の橋が華奢な姿を見せている。
軽い路面電車が通過する橋は機関車通過を考えた国鉄の鉄橋の姿とは大違いで
ある。形式、デザインの異なる路面電車が行き来している。土手の上から天気
の良い日に1日電車が橋を渡るのをぼさーっと見ているのもいいもんだよ。
もっとも「ちこちゃん」に「ぼさーっと生きてんじゃねえよー」と怒鳴られる
かも。



19.阪堺電気軌道の橋は心細いなー



20.路面電車が大きな川を渡るのは珍し
おっせ

更に進むと武骨なPC橋が川をここでも斜めに横断している。ただでも武骨
な構造の橋が斜めに横断していることでその醜悪な姿をさらしている。ここは
斜め横断禁止だ。左岸側では南海の本線がこの橋の下を潜っている。正確には
高速が鉄橋の上を越えているのだ。橋は上下線が相当離れた位置で川を越えて
いる。丁度関空行き特急「ラピート」が駆け抜けて行く。連絡橋に船がぶつか

りしばらく運転休止が続いたがおまっとうさんでした。



21.阪高堺線も斜めに川を渡つとるぞ 22.南海本線を関空行きラピートが駆け抜ける

ここまで府県境近くに有る二上山（H=517m）の方向から流れていた川が大きく湾曲し「金剛山（H=1,125m）の方向からの流れとなり、前方に上町台地が一段高く広がっている。開削にあたり最も苦勞した地域である。本来は真っすぐ流したかったのであるが、台地が行きてを阻み大きく南に回り込んだ所である。



23.川は上町台地で大きく迂回する

南海高野線が川を越える土手で道は途切れ、河川敷に降りるか反対の堤外に向かうかしかなく、やむなく北側の堤外に降りる。しばらく線路沿いの道を進むと踏切に向かう道が緩い上り勾配となる。踏切を越えると周りはそのままの高さとなっている。高野線は台地の西端に線路が敷かれたようだ。なんだかブラタモリだなあ。住宅地を川を求めてうろうろしながら進むと、戦後よく見かけた長屋風の超古い家が並んでいる。ほとんどの家は廃屋となっている。

土手から対岸を見ると大勢の園児が川に入って何かをしている。川魚の稚魚を放流しているのかな？



24.昔はこのような長屋が多かったが



25.大勢の園児が川に入っているぞ

土手に再びたどり着きここからは河川敷を歩くことにする。下から上を見上げれば住宅が土手と同じ高さの所に有る。もう3階建てはいりまへん！



26.土手と同じ高さに住宅が

湾曲の一番南側を阪和線の橋が架かっている。橋を渡り終えた所に「浅香駅」が有り、各停がゆっくりと橋を渡っている。橋の下を越えると今度は紀州路・関空快速がさっそうと通過していく。JRには珍しい1+2の座席配列の列車で、4両×2の併結電車である。



27.阪和線「浅香駅」は川のすぐ南に

28.紀州路・関空快速が通過

川はゆっくりと方向を変え生駒山の方からの流れになる。南側の土地は土手よりも高く、これでは土手とは言えなくなる。敷地は杉本町の東に広がる大阪市立大学のキャンパスである。市の南はずれであるが一等地に在りまん。東隣は市営住宅でこれも川を見ながら洪水の心配の無い一等地である。



29.土手よりも地盤の方が高くなった

30.川の氾濫も土砂崩れも無いここは最高の場所だ

朝は寒いが昼は暑く汗をかきかき進む。左岸側に最初の大きな支流の「西除川」が合流している。「狭山湖」から流れてくる川である。すぐに「吾彦大橋」が現れる。これで「あびこ」と読むようだ。あびこといえば「我孫子」でこのあたりの地名もJRの駅名も我孫子であるが、かつてはこの吾彦だったのかもしれない。子供のころこの字を「がそんし」と読んでいた覚えがある。地下鉄はこれを考慮したのか駅名を「あびこ」とひらがなにしている。

橋は耐震補強として支承を免振ゴム支承に取り替え、桁も補強が成されている。大阪市が管理している橋はどれも素晴らしく、ここまで△評価の橋は1橋も無い。橋の町おおさかの名を高めている。さすがでんな！



31.左岸側に最初のまともな支流「西除川」が合流

32.「吾彦大橋」は支承取り替え、桁補強がなされている

次の橋まで距離がありここなら地下鉄「あびこ」駅が近いので今日はここまでとする。大阪駅まで地下鉄に乗りいかりで夕食の支度買いをして新快速に乗り込む。なんだか市場通いみたいだな。

本日の歩行距離：10.2km。調査した橋の数：13。

総歩行距離：10,121.7km。総調査橋数：12,622。

使用した 1/25,000 地形図：「大阪西南部」（和歌山 9 号-1）、「大阪東南部」（和歌山 5 号-3）